

史跡を巡って——

石垣、山頂への階段、風情ある古道
神社、史跡、資料館、武家屋敷
秋月家の歴史に触れるひととき

「新緑の木漏れ日が
心地よい史跡巡り」

高鍋城は城郭の白壁が緑に映える美しさから舞鶴城とも呼ばれていました。よほど美しい姿をしていたのでしょうか。明治四年の高鍋県の設置で本丸は県庁に用いられましたが、同年十一月の



黒水家住宅

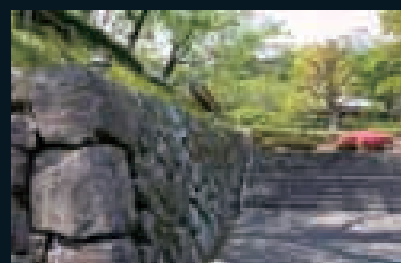
黒水家は高鍋藩秋月家の家老職を務めた家柄です。屋敷は文化・文政(1804～1830)のころに建築されたものと推定され、鍵座敷になった寄棟造り茅葺き屋根の武家屋敷として貴重な文化遺産となっています。

県制度改廃に伴い、建物も解体されました。

現在は石垣が残るのみですが、周囲に秋月家や藩政時代、幕末の戊辰戦争に関わりのある史跡を目にすることが出来ます。

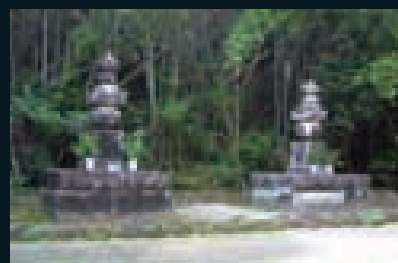
史跡を一つ一つ確かめながら、町を見下ろす展望所まで登ってみました。

新緑の五月、木漏れ日がきらきらと揺れる中をゆつくりと登ると、静かな空間と由緒ある史跡が高鍋の藩政時代をひととき思い起こさせてくれました。



舞鶴公園（高鍋城跡）

苔むす石垣に新緑が影を落とす静かなたたずまいの城跡。往時の面影がしのべれます。



秋月墓地

秋月家の菩提寺は「大龍寺」「安養寺」「龍雲寺」の3寺がありましたが、現在菩提寺はありません。苔むした石の階段を登った小高い山の中腹に歴代の藩主と一族、家臣の墓があります。

城堀を行く——

春は堀辺にしたら桜が咲き
初夏には蓮の花の咲く
美しき城堀

「水を湛えた堀は珍しい」

水を湛えている城堀は全国的にも珍しく、県内では唯一この高鍋城堀だけです。

当時は城を守るように上級武士の屋敷が建ち並び、その周りを堀が囲んでいました。

現在、武家屋敷のあった場所の半分を県立高鍋農業高校が占めています。堀は当時の姿をそのまま残し、野鳥や水生生物の棲みかとなっています。

手入れが行き届き、春はツツジ、しだれ桜が咲き、夏には蓮の花が美しい姿を見せてくれます。